

松山出身 林家染太さん

## 大阪復活寄席に情熱



大阪市内の落語会で英語落語を披露する林家染太さん

### 上方落語盛り上げまっせ

「IQはないけど、愛嬌(あいぎょう)がある染太です」。大きな体でユーモアたっぷりに話す松山市出身の落語家林家染太さん(30)。昨年八月にはニューヨークで英語落語の公演を成功させる

など精力的に活動。大阪では今年、約七十年ぶりに落語定席が復活する予定で、「上方落語を盛り上げていきたい」と張り切っている。林家染丸師匠の下から独り立ちして二年半あま

り。現在は各地の落語会に参加しているほか、テレビ・ラジオへの出演やイベントの司会などにも挑戦し、芸の幅を広げている。「ライフワーク」としている英語落語は、学生

時代に米シアトルやアトランタで公演経験はあったが、ニューヨークは初めて。「芸術のメッカで落語が通用するか不安だった」という。だが、ふたを開けてみれば劇場や領事館など計五カ所での公演はすべて満席。「どの会場も大爆笑してもらえた。面白いものは世界

共通と分かり、自信になった」と喜ぶ。

ちようと現地は日本チームの真っ最中で、セントラルパークで実演した英語版の南京玉すだれも大受け。ブロードウェイを看物姿で歩いていると相撲取りに間違われ、集まった群衆から「ヨコツナ」「アケボノ」と体をバシバシたたかれる一幕もあった。

国内では昨年、テレビドラマ「タイガー&ドラゴン」などのヒットで落語が一躍注目の的。そんな中、関西の落語家やファンが待ちに待った専門寄席「天満天神繁昌(はんじょう)亭」の建設が決定。大阪市北区の大阪天満宮敷地内に今年夏ごろ完成する予定だ。

「定席のある東京をうらやましく思っていたので夢のよう。落語はやっぱり生が一番。派手で陽気でにぎやかな上方落語の楽しさをたくさんの人に知ってもらえるよう、今年もがんばります！」